

# 四半期報告書

(第74期第2四半期)

自 2022年7月1日

至 2022年9月30日

株式会社 バ ナ ー ズ

埼玉県熊谷市石原一丁目102番地

# 目 次

表 紙	頁
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3 経営上の重要な契約等	3
第3 提出会社の状況	4
1 株式等の状況	4
(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(5) 大株主の状況	5
(6) 議決権の状況	5
2 役員の状況	5
第4 経理の状況	6
1 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
2 その他	16
第二部 提出会社の保証会社等の情報	17

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月11日
【四半期会計期間】	第74期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	株式会社バナーズ
【英訳名】	BANNERS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小林 由佳
【本店の所在の場所】	埼玉県熊谷市石原一丁目102番地
【電話番号】	048（523）2018（代）
【事務連絡者氏名】	執行役員 大内 修
【最寄りの連絡場所】	埼玉県熊谷市石原一丁目102番地
【電話番号】	048（523）2018（代）
【事務連絡者氏名】	執行役員 大内 修
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第73期 第2四半期連結 累計期間	第74期 第2四半期連結 累計期間	第73期
会計期間	自2021年4月1日 至2021年9月30日	自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高 (千円)	1,787,901	2,028,579	3,924,491
経常利益 (千円)	23,146	69,269	146,413
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益 (千円)	17,555	55,642	141,022
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	18,892	57,830	143,658
純資産額 (千円)	2,242,765	2,346,788	2,336,750
総資産額 (千円)	9,068,201	9,007,617	9,136,429
1株当たり四半期（当期）純利益 (円)	1.09	3.49	8.78
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	24.59	25.88	25.43
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	38,420	150,344	301,016
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△62,885	△136,840	△70,450
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△99,712	△135,764	△265,333
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高 (千円)	1,299,829	1,266,979	1,389,239

回次	第73期 第2四半期連結 会計期間	第74期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2021年7月1日 至2021年9月30日	自2022年7月1日 至2022年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	0.82	1.87

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が緩和され、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる一方で、世界的な金融引締めによる海外景気の下振れの影響や物価上昇及び金融資本市場の変動等による下振れリスク等、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような事業環境下におきまして、当社グループは全社を挙げて各事業の特性及び付加価値性を活かした事業活動を推進いたしました。

不動産利用事業におきましては、埼玉県本庄市の既存物件の再開発を継続するとともに、埼玉県本庄市児玉町の既存物件の主要構造部分の修繕工事を実施いたしました。埼玉県本庄市の再開発のうちの残り1棟の開発につきましては大きな進展はありませんが、継続して対応を進めております。建築資材の市場価格の変動や金利動向等を注視して、引き続き好条件の賃貸用物件の取得に向けて積極的に取り組んでまいります。

自動車販売事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染防止に取り組み、お客様に安心してご来店頂ける環境作りに注力して営業活動を行ってまいりました。本年9月1日には新型車の「シビック タイプR」が発売され、高価格車ながら好評を得ております。しかしながら、新車生産に必要な部品の供給不足は依然として解消されておらず、納期の長期化は複数の車種に及んでおりますが、インターネットやSNSを利用した宣伝を足掛かりに顧客への接触から各種提案に取り組むとともに、経費削減にも注力した結果、業績は前年同四半期を上回りました。

楽器販売事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が次第に緩和されるなかで来店客数も徐々に増え、演奏会やコンクール及び学校の部活動や市民団体の活動等も再開され始めて、楽器本体や消耗材等の関連商品の需要の増加傾向がみられました。さらなる売上増加を図るため、万全なウイルス感染対策を継続するとともに独自イベントの開催やキャンペーンを実施し、インターネットやSNSを活用した宣伝活動の頻度向上に努めた結果、売上高は前年同四半期を上回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

#### a. 財政状態

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末比128百万円減の9,007百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末比138百万円減の6,660百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末比10百万円増の2,346百万円となりました。

#### b. 経営成績

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,028百万円（前年同四半期比113.5%）、営業利益76百万円（前年同四半期比211.6%）、経常利益69百万円（前年同四半期比299.3%）、親会社株主に帰属する四半期純利益55百万円（前年同四半期比317.0%）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ①不動産利用

売上高は200百万円（前年同四半期比103.3%）、セグメント利益は122百万円（同91.7%）となりました。

#### ②自動車販売

売上高は1,570百万円（前年同四半期比112.4%）、セグメント損失は8百万円（前年同四半期はセグメント損失39百万円）となりました。

#### ③楽器販売

売上高は258百万円（前年同四半期比131.2%）、セグメント利益は22百万円（同822.0%）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ122百万円減少し1,266百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動によって獲得した資金は、150百万円（前年同四半期は38百万円の獲得）となりました。これは主に減価償却費92百万円の計上があったためであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動によって使用した資金は、136百万円（前年同四半期は62百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出159百万円があったためであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動によって使用した資金は、135百万円（前年同四半期は99百万円の使用）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出136百万円があったためであります。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

(7) 主要な設備

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	20,236,086	20,236,086	東京証券取引所 スタンダード市場	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式であ り、単元株式数は 100株であります。
計	20,236,086	20,236,086	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日	—	20,236,086	—	307,370	—	—

## (5) 【大株主の状況】

(2022年9月30日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社エルガみらい研究所	東京都渋谷区恵比寿1丁目24-3 ユニテE703	3,180	19.97
株式会社ハイタッチ	東京都港区南麻布5丁目3-20	917	5.75
シニア開発株式会社	埼玉県熊谷市河原町1丁目180	872	5.48
みよし建設株式会社	東京都新宿区四谷3丁目1	859	5.39
有限会社昭和建材	東京都渋谷区恵比寿3丁目30-13 ナウルマンション306	652	4.09
小山 嵩夫	東京都世田谷区	613	3.84
鈴木 義雄	静岡県伊東市	443	2.78
川口 文三郎	東京都品川区	428	2.68
中島 和信	東京都国分寺市	306	1.92
合同会社ゼンクーサ	東京都渋谷区東3丁目26-3	299	1.87
計	—	8,571	53.82

## (6) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

(2022年9月30日現在)

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 4,311,900	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 15,808,700	158,087	同上
単元未満株式	普通株式 115,486	—	同上
発行済株式総数	20,236,086	—	—
総株主の議決権	—	158,087	—

## ② 【自己株式等】

(2022年9月30日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社バナーズ	埼玉県熊谷市石原一丁目102番地	4,311,900	—	4,311,900	21.30
計	—	4,311,900	—	4,311,900	21.30

## 2 【役員】の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、城南監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,518,326	1,372,467
受取手形及び売掛金	82,405	86,479
商品及び製品	665,380	570,789
原材料及び貯蔵品	3,999	4,344
前渡金	44	—
前払費用	9,132	18,018
短期貸付金	66	66
1年内回収予定の長期貸付金	—	180,000
その他	13,369	9,008
貸倒引当金	△2,046	△2,246
流動資産合計	2,290,677	2,238,927
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,135,969	4,137,527
減価償却累計額	△1,770,461	△1,831,484
建物及び構築物(純額)	2,365,508	2,306,043
機械装置及び運搬具	171,325	190,932
減価償却累計額	△73,991	△89,039
機械装置及び運搬具(純額)	97,334	101,893
工具、器具及び備品	79,161	79,992
減価償却累計額	△50,454	△53,904
工具、器具及び備品(純額)	28,706	26,088
土地	3,852,464	4,027,223
リース資産	33,757	16,929
減価償却累計額	△23,884	△7,701
リース資産(純額)	9,872	9,228
建設仮勘定	17,785	1,087
有形固定資産合計	6,371,673	6,471,564
無形固定資産	2,989	2,726
投資その他の資産		
投資有価証券	1,502	1,502
長期貸付金	387,405	207,372
繰延税金資産	66,903	70,306
その他	26,548	26,487
貸倒引当金	△11,269	△11,269
投資その他の資産合計	471,089	294,399
固定資産合計	6,845,752	6,768,690
資産合計	9,136,429	9,007,617

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	239,536	193,308
短期借入金	600,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	271,032	265,250
1年内返還予定の預り保証金	55,587	55,887
未払金	18,936	30,437
未払費用	25,961	25,864
未払法人税等	11,882	16,566
未払消費税等	53,489	28,384
賞与引当金	13,759	15,694
前受金	278,794	298,038
その他	19,088	22,375
流動負債合計	1,588,068	1,551,807
固定負債		
長期借入金	2,962,276	2,881,708
役員退職慰労引当金	17,190	14,887
退職給付に係る負債	102,653	108,509
預り保証金	1,309,156	1,287,137
長期前受収益	92,746	89,481
再評価に係る繰延税金負債	718,180	718,180
その他	9,407	9,116
固定負債合計	5,211,610	5,109,021
負債合計	6,799,679	6,660,828
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	307,370	307,370
資本剰余金	576,022	576,022
利益剰余金	548,549	556,418
自己株式	△748,550	△748,570
株主資本合計	683,391	691,241
その他の包括利益累計額		
土地再評価差額金	1,639,601	1,639,601
その他の包括利益累計額合計	1,639,601	1,639,601
非支配株主持分	13,757	15,945
純資産合計	2,336,750	2,346,788
負債純資産合計	9,136,429	9,007,617

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	1,787,901	2,028,579
売上原価	1,350,758	1,566,020
売上総利益	437,143	462,558
販売費及び一般管理費	※ 400,768	※ 385,581
営業利益	36,374	76,977
営業外収益		
受取利息	3,088	2,864
受取配当金	58	58
その他	2,064	7,271
営業外収益合計	5,211	10,195
営業外費用		
支払利息	18,087	17,112
その他	351	789
営業外費用合計	18,438	17,902
経常利益	23,146	69,269
特別損失		
固定資産除却損	105	—
特別損失合計	105	—
税金等調整前四半期純利益	23,041	69,269
法人税等	4,148	11,439
四半期純利益	18,892	57,830
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,337	2,187
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,555	55,642

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	18,892	57,830
四半期包括利益	18,892	57,830
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	17,555	55,642
非支配株主に係る四半期包括利益	1,337	2,187

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	23,041	69,269
減価償却費	96,206	92,889
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	6,930	5,856
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	1,579	△2,302
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,208	199
賞与引当金の増減額 (△は減少)	2,355	1,934
受取利息及び受取配当金	△3,146	△2,923
支払利息	18,087	17,112
固定資産除却損	105	—
売上債権の増減額 (△は増加)	47,170	15,169
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△43,623	64,152
仕入債務の増減額 (△は減少)	△128,512	△46,227
未収消費税等の増減額 (△は増加)	59,193	—
未払消費税等の増減額 (△は減少)	6,457	△25,104
預り保証金の増減額 (△は減少)	△27,447	△25,583
その他の資産・負債の増減額	△15,266	7,392
小計	41,923	171,837
利息及び配当金の受取額	2,763	2,765
利息の支払額	△14,326	△13,671
法人税等の支払額	△3,073	△10,586
法人税等の還付額	11,133	—
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>38,420</b>	<b>150,344</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△22,200	△31,000
定期預金の払戻による収入	18,000	54,000
有形固定資産の取得による支出	△58,467	△159,872
貸付金の回収による収入	33	33
その他の支出	△250	—
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△62,885</b>	<b>△136,840</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	35,000	50,000
長期借入金の返済による支出	△99,400	△136,350
自己株式の取得による支出	△35	△19
配当金の支払額	△31,711	△47,428
リース債務の返済による支出	△3,566	△1,966
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△99,712</b>	<b>△135,764</b>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△124,177	△122,259
現金及び現金同等物の期首残高	1,424,006	1,389,239
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,299,829	※ 1,266,979

【注記事項】

(会計方針の変更)

(税金費用の計算方法の変更)

従来、当社及び連結子会社の税金費用につきましては、原則的な方法により計算しておりましたが、当社及び連結子会社の四半期決算業務の一層の効率化を図るため、一部の連結子会社において、第1四半期連結会計期間より連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。

なお、当該会計方針の変更による影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

一部の連結子会社における税金費用につきましては、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響)

当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定についての重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
給与及び手当	138,035千円	131,524千円
賞与引当金繰入額	10,697	9,885
退職給付費用	5,348	5,041

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金勘定	1,413,716千円	1,372,467千円
預入期間が3ヶ月超の定期預金	△113,886	△105,487
現金及び現金同等物	1,299,829	1,266,979

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月13日 取締役会	普通株式	32,349	2	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月12日 取締役会	普通株式	47,772	3	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自2021年4月1日 至2021年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	不動産利用	自動車販売	楽器販売	合計	調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	193,633	1,397,427	196,841	1,787,901	—	1,787,901
セグメント間の内部 売上高又は振替高	30,912	72	—	30,985	△30,985	—
計	224,546	1,397,499	196,841	1,818,887	△30,985	1,787,901
セグメント利益又は 損失(△)	133,668	△39,973	2,743	96,438	△60,063	※ 36,374

(注) セグメント利益又は損失(△)の調整額△60,063千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

※四半期連結損益計算書の営業利益

II 当第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	不動産利用	自動車販売	楽器販売	合計	調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	200,119	1,570,148	258,311	2,028,579	—	2,028,579
セグメント間の内部 売上高又は振替高	30,840	72	—	30,912	△30,912	—
計	230,959	1,570,220	258,311	2,059,491	△30,912	2,028,579
セグメント利益又は 損失(△)	122,561	△8,218	22,549	136,893	△59,916	※ 76,977

(注) セグメント利益又は損失(△)の調整額△59,916千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

※四半期連結損益計算書の営業利益

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

I 前第2四半期連結累計期間（自2021年4月1日 至2021年9月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	不動産利用	自動車販売	楽器販売	
新車	—	843,029	—	843,029
中古車	—	301,496	—	301,496
修理部品用品	—	201,423	—	201,423
受取手数料	—	51,478	—	51,478
楽器関連	—	—	196,841	196,841
顧客との契約から生じる収益	—	1,397,427	196,841	1,594,268
その他の収益（注）	193,633	—	—	193,633
外部顧客への売上高	193,633	1,397,427	196,841	1,787,901

(注) その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）に基づく不動産賃貸収入、及び、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）に基づく金融商品に係る取引であります。

II 当第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年9月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	不動産利用	自動車販売	楽器販売	
新車	—	953,226	—	953,226
中古車	—	341,239	—	341,239
修理部品用品	—	223,133	—	223,133
受取手数料	—	52,548	—	52,548
楽器関連	—	—	258,311	258,311
顧客との契約から生じる収益	—	1,570,148	258,311	1,828,459
その他の収益（注）	200,119	—	—	200,119
外部顧客への売上高	200,119	1,570,148	258,311	2,028,579

(注) その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号 2007年3月30日）に基づく不動産賃貸収入、及び、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）に基づく金融商品に係る取引であります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月 30 日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月 30 日)
1 株当たり四半期純利益	1円9銭	3円49銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	17,555	55,642
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (千円)	17,555	55,642
普通株式の期中平均株式数 (千株)	16,174	15,924

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月11日

株式会社バナーズ  
取締役会 御中

城南監査法人  
東京都渋谷区

指定社員 公認会計士 塩野 治夫  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 加藤 尽  
業務執行社員

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社バナーズの2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社バナーズ及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## その他の事項

会社の2022年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して2021年11月12日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して2022年6月29日付けで無限定適正意見を表明している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月11日
【会社名】	株式会社バナーズ
【英訳名】	BANNERS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小林 由佳
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	埼玉県熊谷市石原一丁目102番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長小林由佳は、当社の第74期第2四半期（自2022年7月1日 至2022年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。